

C：審査会の意見

「協働事業報告書」、「決算報告書」、「A：自己評価シート」、「B：相互評価シート」、および、「報告会の内容」をもとに、ご記入ください。

事業名	平塚市立小・中学校運動場、体育館個人利用促進事業		
事業開始年度	平成26年～	提案型	<input checked="" type="checkbox"/> 市民提案型協働事業 <input type="checkbox"/> 行政提案型協働事業
団体名	東海大学地域 スポーツクラブ	担当課名	スポーツ課

(1) 良かった点（さらに伸ばして欲しい点）

- ※ 単独より協働でのメリットや、先駆性など事業の良い点・他事業も参考にして欲しい点など
- ・学生の視点による事業運営が利用者の満足度を向上させ、学生の実践活動そのものが地域貢献につながる素晴らしい事業だと思います。
 - ・スポーツを始める際の「まずはどこかのグループ、団体に所属しなければ」という意識を「とりあえずやってみよう」へと変えることができる良い取り組みであると思います。
 - ・学生の皆さんが社会に出る前に市民との関わりや事業運営の経験ができることは、一つのインターンシップとして貴重であると思います。
 - ・公立学校の施設利用は団体単独ではハードルが高いが、行政と協働することによりスムーズに施設を活用できた点は大きなメリットと言えるのではないかと。
 - ・パラスポーツ体験はこれまでの活動内容に新たなメニューを加え、前向きな取り組みとして評価できる。福祉関連部署との連携も視野に入れて欲しい。今後この事業単体として、市民ファンド或いは新たな協働事業として提案してはどうか。
 - ・活動中、高齢者と小学生と一緒にスポーツを楽しんでいる姿や、家族間の交流が見られたなどの報告がなされたが、参加者数だけでなく地域のコミュニケーション作りにも大きな役割を果たしたのではないかと。
 - ・大学生が専門知識を活かして地域で社会貢献できる場が得られたこと、行政にとっては、サークルに属さない市民に気軽にスポーツを楽しめる機会を提供できたこと、そして受益者である市民にとっては身近なところでひとりでも気軽に参加できたことなど、お互いにメリットのある事業であったのではないかと。また、この事業が世代間交流の場という副次的効果もあったとの報告があり、今後も大学生が地域でできる活動としてぜひ継続して行ってほしいと思います。
 - ・夜間や休日など行政サービスが届きにくい時間帯に、学校を開放し、色々な世代の市民がスポーツを楽しめるという先駆的な事業は地域に東海大学があり、地域スポーツクラブの学生の自主性が活かされているからこそ成功したのだと思います。
 - ・3校を1校に絞って絞込んで継続していくということで今度はより地域の方々との交流が深く展開できるのではないかと期待しています。スポーツのノウハウを通して地域特徴を生かした簡単なオリジナルの体操やダンスなどを開発し、準備体操（アイスブレイキング）として参加者みんなが楽しむなどしたらいかがでしょうか。

(2) 課題の改善や今後への助言など

※ 改善して欲しい点や今後の事業展開へ向けてのアドバイスなど

- ・学生の団体ですから、卒業・入学などによりメンバーは入れ替わります。しかし、「人が替わるということは、新しいアイデアが生まれる可能性がある」ということなので、新入生を迎えたら、ブレインストーミングなどを行いながら、新しい（楽しい）メニューをつくって欲しいと思います。
- ・事業の継続、拡大に向けて、地域団体（体育振興会、地区社協など）との連携を検討する必要があると思います。
- ・参加者のニーズを把握するため、定期的にアンケート調査を実施することが重要であると思います。
- ・参加者がステップアップや団体への加入を希望した場合の対応について、検討していただければと思います。
- ・開催回数には限度があると思うので、自宅等で行えるトレーニング等のアドバイスをしていただくと良いと思います。
- ・学生の継続的な活動がネック。今後も交通費程度の支給は必要と考えるが、そこをどう担保していくかが課題。大学によっては、ボランティア助成金のようなものもあるが。（法政大学、さがまちコンソーシアム等）
- ・昨今、子どもの貧困に関連した学習支援が行われているが、スポーツの面で事業提案できないか？これまで実施してきた事業の年齢別参加者数がわかると、起案しやすいのではないかと。
- ・これまでの実施状況からはリピーターが多く口コミで参加者が広がったということでした。実施場所が1か所になるということですが、受け入れられる人数に特に制限はないという話もありました。「ひとりでも気軽にスポーツを楽しむ機会の提供」という目的を考えると、スポーツを普段あまりしない人、運動に苦手意識のある人にとっても、体を動かすのって楽しい！と感じてもらえるような、ハードルの低いメニューもあると、参加しやすいのではないかと感じました。（体験したことのないスポーツへの挑戦やひとりでも取り組める体力づくり健康づくりのための運動など）場の開放にとどまらず、ぜひ、大学生ならではの視点・発想を活かした企画にもチャレンジしてみたいと思います。
- ・小さなお子さんとお年寄りが一緒にスポーツをしている光景も見られたということですがとても微笑ましく思います。スポーツではけがをしないことが大事ですが、救急研修なども取り入れ、大学交流事業としてのさらなる発展を期待します。
- ・人材不足の課題もあるとのことでしたが、広報活動にも力を入れることが大事です。同じ協働事業を展開した、「市内スポーツ情報ポータルサイト」でも掲載して下さって連携ができていますが、特集などを組んで仲間募集のPRをしたらどうでしょうか。
- ・パラスポーツなども取り入れていくとのことですが、平塚で人気の種目などを学生ならではのフットワークの良さで紹介し、スポーツ課のサポートで輪を広げてほしいと思います。

C：審査会の意見

「協働事業報告書」、「決算報告書」、「A：自己評価シート」、「B：相互評価シート」、および、「報告会の内容」をもとに、ご記入ください。

事業名	市内スポーツ情報ポータルサイトの構築・運営事業		
事業開始年度	平成26年～	提案型	<input checked="" type="checkbox"/> 市民提案型協働事業 <input type="checkbox"/> 行政提案型協働事業
団体名	認定NPO法人 湘南ふじさわシニアネット	担当課名	スポーツ課

(1) 良かった点（さらに伸ばして欲しい点）

- ※ 単独より協働でのメリットや、先駆性など事業の良い点・他事業も参考にして欲しい点など
- ・当初に掲げた「いつでも どこでも 手軽に」というめざす姿を具現していると思います。
 - ・知りたい情報を比較的ストレスなく検索できる点が良いと思います。
 - ・大会の中止・順延等の即時告知機能は、大変貴重であると思います。
 - ・スポーツといえども堅い印象を持たれがちな行政の情報が、明るく楽しいイメージで提供されていることは効果的であると思います。
 - ・スポーツに特化したサイトは利用しやすく、市は情報の多い市のホームページの今後のあり方において、詰込み型からリンクの活用への転換などについて検討する必要があるのではないかと感じました。
 - ・協働の観点から、相互理解、対等の関係、役割分担がしっかり行われたことが窺える。情報の収集・提供を行政が担い、高いテクニックを有した団体のスキルを十分に活用できたことは評価できる。
 - ・協働の担当課のみならず健康課や障害福祉課等、市の関連部署にもポータルサイトの利用が広がってきたことは、まさに協働の成果といえるのではないかと。
 - ・市の役割は得てして、広報、資金提供に陥りがちだが、理想的な役割分担が出来たように思われる。また、今後に向けて新たな協力団体を加えて事業を継続していくとのこと。期待したい。
 - ・団体は、ポータルサイトの制作・運営に実績があり、その力が十分発揮された事業であると思います。また、実際のサイトや報告会からは、この事業と一緒に取り組んだ担当課の熱意も伝わってきました。ひらつかスポーツナビは、施設や団体情報だけではなく、平塚ゆかりのスポーツ選手に関するニュース記事や湘南ベルマーレ観戦記、ウォーキングマップ・サイクリングマップなど健康づくりにも活かせるような、楽しめるコンテンツもあり、スポーツをする人だけではなく関心のあるすべての人に活用してもらえる間口の広さがよいと思います。東京オリンピック・パラリンピックをキーに、スポーツを超えた様々な活用・展開も出来そうです。
 - ・団体の高度なスキルと行政（スポーツ課）の情報収集の連携がスムーズに機能した協働事業の誇れる事業だと思います。報告会でのアドバイスなどを次々と取り入れ内容がバージョンアップしていったことも評価できます。
 - ・事業の目的が「いつでも どこでも 手軽にスポーツを楽しめる」きっかけづくりへの貢献ということで、若い世代に利用が増えているということですが、シニア世代にも普及していくことが望まれます。

(2) 課題の改善や今後への助言など

※ 改善して欲しい点や今後の事業展開へ向けてのアドバイスなど

- ・アンケートなどの方法を含め、効果測定（「情報を得たことによりスポーツへの参加率がどのくらい高まったか」など）の検討が重要であると思います。
- ・評価シートにもありますが、アンケート等の実施により「ポータルサイトを利用した市民が実際にスポーツを親しむことにつながる」という事業目的の達成状況を把握され、その後の展開に活用していただければと思います。
- ・リンク切れのチェックはどのようにされているのでしょうか。
- ・「小中学校運動場体育館個人利用促進事業」が見つかりませんでした。（検索以外の方法で）
- ・今後、スキルに見合った費用を検討していく必要があるのではないかと。
- ・2020年に向けて、サイトがより活発に活用されていくことを期待している。
- ・現在のユーザーだけではなく、利用したことがない人へのアンケート、ヒアリングを行うことで、見やすさ使いやすさの改善やさらに魅力あるコンテンツづくりへのヒントが得られるのではないかと思います。また、SNSとの連動にあたっては、興味をひく記事や写真を定期的にアップしていく必要があります。記事・イベント投稿ができる機能に加え、独自に力のあるライターやカメラマンなど運営にかかわってくれるボランティアスタッフを増やしていくことで、さらに充実したサイトになることを期待しています。
- ・今後は他の地域メディア（FM湘南ナパサやSCN）タウン誌での広報や連携を蜜にしてポータルサイトの利用効果を市民に実感していただけるPRをすると良いと思います。
- ・今後は協働団体に「平塚市まちづくり財団」を加え安定した財政基盤を構築するとのことですが。続々と意欲的なアイデアが生まれそうで期待しています。さらにアンケート等を継続して実施して市民のニーズを反映させてください。
- ・平塚市のような他の分野や課との連携も可能だと思いますが一つの団体だけでは疲弊しますのでポータルサイト充実のノウハウを他の市民団体や行政の課に教授していけると良いですね。

C：審査会の意見

「協働事業報告書」、「決算報告書」、「A：自己評価シート」、「B：相互評価シート」、および、「報告会の内容」をもとに、ご記入ください。

事業名	不登校・ひきこもり改善・自立支援事業		
事業開始年度	平成28年～	提案型	<input checked="" type="checkbox"/> 市民提案型協働事業 <input type="checkbox"/> 行政提案型協働事業
団体名	NPO 法人ぜんしん	担当課名	青少年課

(1) 良かった点（さらに伸ばして欲しい点）

- ※ 単独より協働でのメリットや、先駆性など事業の良い点・他事業も参考にして欲しい点など
- ・人員の確保、会場の確保などの課題について、団体と行政が協議を重ねながら解決策を講じている点が良いと思います。
 - ・自立支援事業の中で、「就労支援」まで視野に入れて考えていることを高く評価します。
 - ・当事者であった方の経験談は、相談される方にとって大変参考になるとともに、ある意味では支えとなるのではと感じました。協働事業によりこれまで以上にそうした支援情報が多くの方に提供できたことの意義はとて大きいと思います。
 - ・団体が単独で行っていた相談を行政と連携したことにより信頼性が増し、参加者が増加したことは大いに評価できる。
 - ・協働の視点から、行政が対応できること、団体が対応できることを役割分担し、それぞれの強みを活かした相談対応が出来たことは特筆すべきこと。
 - ・通常、保護者の相談はあっても当事者が相談に訪れる事例は少ないとの報告があったが、団体の特徴であるゲーム・PC・当事者意識が呼び水となって活かされているのではないか。
 - ・当事者と同じ目線に立てる、自立支援のプログラムやスキルを持っているという団体の強みに加え、行政による周知や専門相談員と一緒に対応することの安心感など、協働だからこそできる事業だと感じました。
 - ・団体が得意とするゲームなどを切り口とした手法をいかし行政の相談員とともにひきこもりなどに悩む親子に支援する内容が充実し「ホッとした、気持ちが楽になった」などの参加者の感想が聞けたことは良かったと思います。
 - ・相談や心をやすませられる居場所が見つかるに参加された方は継続を望むと思います。実施の回数が増えると良いですが、さらなるフリースペースの憩いの場所としての工夫と人材確保の課題が出てくるので双方の連携がもっと必要になるでしょう。他の団体や専門家にもサポートをしてもらう体制ができればよいと考えます。

(2) 課題の改善や今後への助言など

※ 改善して欲しい点や今後の事業展開へ向けてのアドバイスなど

- ・団体側の課題として示されている「人員の確保（ボランティア含む）」については、ひらつか市民活動センター、平塚市ボランティアセンター（市社協）等の関係機関に相談（連携）しながら、即戦力となる人材の確保に努めることも必要だと思います。
- ・事業の継続と充実を図っていただき、併せて団体と市（必要に応じて他の行政機関等）とも十分協議を進められ、将来的には行政の委託事業としての可能性も検討されてみてはと思います。
- ・相談後のフォローをどうしていくかが今後の課題と思われる。また、相談を必要としている人にどのように情報を届けるか、行政の他の部署（福祉関連部署・社協CSW等）との連携も視野に入れて欲しい。
- ・団体の相談者のスキルアップや人材育成は、一朝一夕にできるものではない。市民ファンドの活用は期待できるが、他域の団体との連携や人材交流などを検討してみてはどうか。
- ・不登校やひきこもりの当事者親子が相談したり意見交換する場を求める声（毎月開催してほしいというアンケート結果等）にどのように応えていくのかは課題があると思います。何を持って「自立」と言うのかにもよりますが、協働事業としてできるのは、ほんの入り口の部分だけであるとすれば、自立までの遠い道のを誰がどのように支えていくのか、団体の自主事業に加え、関連する機関や他の行政担当課などとも連携しながら当事者ひとりひとりの支援体制を整えられるとよいと思います。
- ・今後も双方の連携を継続していくとのことですが相談者の就労支援などまで手がける場合、審査員など中にはサポートできる団体や組織を知っていると発言もありましたので積極的に色々な方々のアドバイスを受けることも良いかと思います。
- ・団体は若い会員もいらして今後の発展が期待されますが事業として展開できる組織として社会問題になって悩んでいる方も多し不登校やひきこもり改善の自立支援に尽力してほしいと思います。青少年課だけない他の課との連携にもチャレンジして下さい。